

高知市方言における文末のモダリティ形式 「ニカーラン」の意味論的考察

橋 尾 直 和

1. はじめに

高知市方言において、文末のモダリティ形式として「ニカーラン」がある。まず、「ニカーラン」に関する従来の辞書記述を検討してみたい。以下に、『高知県方言辞典』（1985）と『日本方言大辞典』下巻（1989）の記述を掲載する。

○『高知県方言辞典』（1985：448）

にかーらん〔連語〕…のようだ。…であろう。…にちがいない。（常に「に」という助詞から続いているところから考えると、古典語としての「にかあらん」の系統をひいたものと見られよう）「ありゃ犬ニカーラン」「明日は雨が降るニカーラン」

ここでは、語源を古語の「にかあらん（む）」として解釈し、意味は「…のようだ」「…であろう」「…にちがいない」としている。

○『日本方言大辞典』下巻（1989：646）

かわらん【変-】助詞「に」を受けて、のようだ、に違いないの意を表す。高知県（《かーらん》高知県香美郡「今から考えたらあほーにかーらん」（あほうみたいだ）高知市「今までは失敗したが今度こそ大丈夫にかーらんよ（違いないよ）」「先生はもーおかやった（お帰りになった）にかーらん」

ここでは、語源を「かわらん（変わらん）」と解釈し、意味は「のようだ」「に違いない」としている。

両者の共通点としては、意味を「～のようだ」「～にちがいない」と捉えることが挙げられる。相違点としては、『高知県方言辞典』の方は「～であろう」、『日本方言大辞典』の方は高知県香美郡の例として、「～のようだ」の意味の代わりに「～みたいだ」を意味として挙げていることが確認できる。

一方、先行研究として、文末のモダリティ形式としての「ニカーラン」を扱った論文には、土居（1937）、日本放送協会（1981）、横井（1981）、吉田（1984）、高橋（1992）、高木（2001）、安岡（2003）などが挙げられる。ここでは、体系的な記述がなされている高木（2001）と安岡（2003）を中心に参照して、「ニカーラン」の意味分析を試みたい。

まず、高木（2001：73）において、次の記述が見られる。

最後に標準語との比較をしておきたい。高橋（1992）や橋尾（2000：158）はニカー

ランの訳語として「にちがいない」や「だろう」を挙げているが、4. 1で述べたとおり、これらの形式は用いられる文脈でニカーランを使用することはできない。ニカーランは証拠に基づいて判断を下すということを基本的な意味として持つ、証拠性判断を示すモダリティ形式である。標準語では、証拠に基づいて判断を下すということを表す形式に「らしい」「ようだ」「みたいだ」「(し) そうだ」がある(仁田 2000)。話し手の判断を含まない「伝聞」を表すものには「そうだ」である。(省略)

高木(2001)では、橋尾(2000)『土佐弁ルネサンスー土佐ことば辞典ー』を先行研究として挙げ、「ニカーラン」の意味を「…のようだ」「…にちがいない」として紹介しているが、筆者の挙げた「ニカーラン」の意味は、正確には『高知県方言辞典』(1985: 448)と同じく、「…のようだ」「…であろう」「…にちがいない」である。ただし、橋尾(2000)で扱った方言は、長岡郡大豊町奥大田方言であり、高知市方言とは異なる。この意味・用法は、フィールドワークによって収録したもので、インフォーマントは当時 86 歳の女性である。

これに対して、高木(2001)における分析対象の方言は、宿毛市方言で、インフォーマントが当時 69 歳男性、53 歳女性であり、対象となる地域も年齢も性別も異なっている。橋尾(2000)のインフォーマントが、生え抜きの話者であるのに対して、高木(2001: 76)のインフォーマントは、県外移住を繰り返されており、生え抜きの話者とは言いがたい。

次に、高木(2001: 74-75)が結論づけた「高知県幡多方言におけるニカーランの意味・用法」の要旨を、以下に掲載しておく。

「ニカーランは、「なんらかの証拠に基づいて、ある事態が真であると話し手が判断した」ことを示す。したがって「だろう」「にちがいない」とは質的に異なる。ニカーランが用いられるのは、話し手が聞き手より情報を多く有している(と話し手が考えている)場合に限られる。話し手と聞き手の情報量という基準は標準語には存在しないため、ニカーランは証拠性判断を示す「らしい」「ようだ」「(し) そうだ」の用法と完全には一致しない。命題に挙げられる事態は、話し手にとって真偽が不確かなものでなければならない。事態が真であることが話し手にすでに把握されている場合(「婉曲」)にはニカーランを用いることはできない。ニカーランは、証拠となる情報の出処については関知しない。人から伝え聞いた情報であることもあれば(「伝聞推量」)、それ以外の情報であることもある(いわゆる「推定」)。ニカーランは、その判断が話し手によってなされたものであることを示す。第三者による判断をそのまま提示する場合(「伝聞」)にはニカーランは用いられず、ト、ツなどの形式によって表される」

結論を先に述べると、筆者が高知市方言の「ニカーラン」を意味分析した結果、高木(2001: 74-75)が結論づけた内容と大きく異なることが判明した。後に詳しく述べることにする。

また、安岡(2003)は、高木(2001)が共時的考察であるのに対して、通時的考察となっ

ている。すなわち、「ニカーラン」についての用法を記述するとともに歴史的変化を推定し、従来の古語「にかあらん」出自説を否定している。「に変わらぬ」が「ニカーラン」に変化したものと捉えている。安岡（2003：29）において、次の記述が見られる。

これらのことから、ニカーランの出自は「にかあらむ」ではなく、「に変わらぬ」が三. 二で示したような経緯で比況・様態の連語として成立し、現在、推量及び伝聞推量に移行するとともに、比況の用法は衰退しはじめていると考えられる。同時に、連用・連体修飾の用法も衰退したのであろう。

この原因としては二. 三で述べたように意味の類似するミタイナの影響が考えられる。ミタイナに押し出され、連用・連体修飾の場合が多い比況・様態の用法から、推量や伝聞推量に変化したと考えられる。

安岡（2003）における分析対象の方言は、高知市、旧春野町、旧香北町、旧香我美町、旧大方町の4方言である。高木（2001）が質問票を用いての面接調査法を採用したのに対して、安岡（2003）においては自然傍受法を採用している。方言話者は、安岡（2003：13-14）によれば、高知市が当時70代男性と50代男性と安岡氏20代男性（旧香我美町出身）、20代～40代女性数名（年齢は安岡氏の推定）、30代（推定）女性1名、20代女性3名、20代男性2名（うち1人は安芸郡田野町出身）、旧春野町が当時60代女性と40代女性（旧香我美町在住）、旧香北町が当時80代女性と安岡氏（旧香我美町出身）、旧大方町が当時90代男性と安岡氏（旧香我美町出身）ということが分かる。ここにおいても、自然傍受で得られた談話資料を重要視することは納得できるが、地域差・年齢差・性差を考慮した分析になっていない。

また、取り上げられた「ニカーラン」のカテゴリーが、安岡（2003:20）の表2-2「ニカーラン・ミタイナ・ヨーナの用法のまとめ」によると、「例示・様態、比況、推量、伝聞推量」であることが分かる。筆者の考察によれば、後述することになるが、「ニカーラン」の意味・用法は、これほど単純なものではない。自然談話の重要性は分かるが、談話で得られなかった用法を確認するためには、質問票による面接調査法が有効であると、筆者は考える。

これらの先行研究を踏まえて、本稿においては、まずインフォーマントである高知市方言話者を生え抜きの男性1人にしぼり、質問票による面接調査法を採用し、体系的に意味記述し、「ニカーラン」の意味・用法を明らかにしたい。本稿で用いた例文の判定は、すべて高知市上町在住の高年層方言話者である生え抜きのインフォーマント（資料提供者）四ノ宮久雄氏（1934年（昭和9年）3月生まれで現在80歳）によるものである。言語調査は、予備調査を2014年4月に本調査を2014年5月に行った。

2. 意味分析 ^(注1)

意味分析を行うに当たって、先行研究の高木（2001）の分析例を参照して、まず、高知市方言における「ニカーラン」の共起制限を検討しておきたい。まず、高木（2001：65-66）において、「ニカーラン」を用いた文が非文となっている例について、検討したい。

「だろう」「にちがいない」とニカーランを比較・対照した例文を挙げ、高知市方言の「ニカーラン」を分析する。

- (1) a. {きつと／おそらく／たぶん} この問題は誰一人解けない {だろう／にちがいない}。
 b. {キット／オソラク／タブン} コンモンダイワ ッダレツチャー トケン ニカーラン。

共通語と同様に、{キット／オソラク／タブン} とニカーランには、共起制限がない。

- (2) a. あの人は、自分の孫は合格するにちがいないと信じている。
 b. アンヒター ジブンクノマッゴワ ッゴーククスル ニカーラン チ シンジチュー。

話し手の確信を表すような場合においても、ニカーランを用いることができる。

- (3) a. {どうやら／どうも} 風邪をひいた {^xだろう／ようだ／らしい}。
 b. ッドーモ カゼオ ヒータ ニカーラン。

(1)から(3)の「ニカーラン」を用いた例文が、すべて成文であることから、高知市方言の「ニカーラン」に対応する共通語は、「だろう」「にちがいない」「ようだ」「らしい」であると言える。

高木（2001）においては、分析例として「ニカーラン」に対応する共通語として、「そうだ」は一度も登場しない。この点については、安岡（2003）も同様である。ただし、『方言文法全国地図』GAJ243～246 図（高知県部分）「天気予報ではあしたは雨だそうだ」、GAJ247～249 図（高知県部分）「あの人の話では、東京はずいぶん物価が高いそうだ」、GAJ250～252 図「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ」を提示し、「伝聞推量」として扱っている。

- (4) a. 天気予報ではあしたは雨だそうだ。
 b. テンキヨホーヅチャ アシター アメ ニカーラン。
 (5) a. あの人の話では、東京はずいぶん物価が高いそうだ。
 b. アンヒトノハナシヅチャー トーキョーワ コジャント ブッカッガ タカイ ニカーラン。
 (6) a. 昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ。
 b. ンカシ ンカシ アンヤマニヤー オニッガ イタ ニカーラン。

(4)から(6)においては、すべて「ニカーラン」を使用することができる。したがって、考察対象として、「そうだ」を追加する必要がある。さらに、高木（2001:71-72）において、「ミ

タイナ」「ニカーラン」と「みたいだ」を比較・対照していることから、「みたいだ」を追加し、筆者の判断によって「かもしれない」「はずだ」を加えることにする。

したがって、高知市方言の「ニカーラン」に対応する共通語は、「だろう」「かもしれない」「にちがいない」「はずだ」「ようだ」「みたいだ」「らしい」「(し) そうだ」「(する) そうだ」ということになる。本稿では、以下にこれらの共通語と比較・対照させて、「ニカーラン」の意味・用法を明らかにしたい。

これらの共通語の形式は、「認識のモダリティ」である文末のモダリティ形式に相当する。本稿では、このモダリティの下位概念を、宮崎ほか(2002)に従って、「断定」の対立項目としての「推量」(だろう)、「可能性・必然性」(かもしれない・にちがいない・はずだ)、「証拠性」(ようだ・らしい・(し) そうだ・(する) そうだ)と捉え、「ニカーラン」の意味分析を行う。例文作成に当たっては、日本語記述文法研究会編(2003)を参照した。

2. 1 「推量」

2. 1. 1 「だろう」と「ニカーラン」

2. 1. 1. 1 接続と形

「だろう」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞+「だった」に接続する。

- (7) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} だろう)
- (8) コノブantanワ {タカイ／タカカッタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} だろう)
- (9) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカッダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静か／静かだった} だろう)
- (10) コーベワ {アメ／アメッダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨／雨だった} だろう)

2. 1. 1. 2 意味と用法

(11)aの文は、〈話し手が真であると信じていることを相手に知らせたり、同意を求めたりする表現〉で、〈断定〉を表し、〈確言ムード〉に当たる。これに対して、(11)bの文は、〈話し手が真とは断定できない場合や断定したくない場合の知識を述べる表現〉で、〈推量〉を表し、〈概言のムード〉に当たる。〈推量〉は、言い換えれば〈想像や思考によって、その事態が成立するとの判断を下すこと〉である。

- (11) a: オキナーワ コノジキ マッコト アトゥイ ゼヨ。(沖縄は、この時期とても暑いぞ)

b: オキナーワ コノジキ マッコト アトゥイ ニカーラン。(沖縄は、この時期と

でも暑いだろう)

- (12) ココニャー キット エライヒトッガ ネムッチョッタ ニカーラン。(ここには、きっと偉い人が眠っていたのだろう)
- (13) オソラク コンナニ フトイ ッヂジシンワ モー オコラン ニカーラン。(おそらく、こんなに大きな地震は、もう起こらないだろう)
- (14) アスワ ハレル ニカーラン。(明日は、晴れるだろう)
- (15) キョーノ シアイデワ ハンシンッガ カトッ ニカーラン。(今日の試合では、阪神が勝つだろう)

(12から(15)の例も、〈断定を避けた推量〉であることが分かる。ところが、(16)から(18)の例文における質問の回答から、〈想像や思考によって判断を下すこと〉を表すことが分かる。

- (16) a: コンモンダイワ ニューシニ ッデルローカ。(この問題は、入試に出るだろうか)。
b: タブン ッデル ニカーラン。(たぶん、出るだろう)
- (17) a: キニョー ケンリトッダイノチームワ カッタッガカエ? (昨日、県立大のチームは勝ったのかい)
b: ワカランゼヨ。(わからないよ) ケンド タブン カッタ ニカーラン。(でも、たぶん勝っただろう)
- (18) a: トモンダチンクニ ヒトッガ オルッガ、アンヒター ッダレゼヨ? (友達の家の人に
がいるけれど、あの人は誰だい?)
b: キット フクッドメサン ニカーラン。(きっと、福留さんだろう)
- ただし、次の(19)(20)のような場合には、「ニカーラン」は使用することができない。
- (19) *コンナフーッデ エイ ニカーラン! (こんな風で良いだろう?)
- (20) *アリヤー クモンサンク ニカーラン! (あれは、公文さんの家だろう?)

つまり、〈自分の断定を避けて、相手に確認してもらおうという表現〉には用いられないことが分かる。したがって、〈確認要求〉の意味特徴は持たない。

2. 1. 1. 3 共起する副詞的表現

「だろう」に対応する「ニカーラン」は、しばしば確信の度合いを表す副詞を伴って用いられる。「キット」「ダブン」「オソラク」など、さまざまな副詞と共起する。このほか、「サゾ／サゾカシ」とも共起する。

- (21) {キット／ダブン／オソラク} ササオカサンガ イーンチョーニ エラバレル ニカーラン (きっと／たぶん／おそらく) 笹岡さんが、委員長に選ばれるだろう)

「だろう」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を

抽出することができる。これを「ニカーラン 1」とする。

「ニカーラン 1」: 〈推量 (想像や思考によって、その事態が成立するとの判断を下すこと)〉

2. 2 可能性・必然性

2. 2. 1 「かもしれない」と「ニカーラン」

2. 2. 1. 1 接続と形

「かもしれない」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞+「だった」に接続する。

- (22) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} かもしれない)
- (23) コノブantanワ {タカイ／タカカッタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} かもしれない)
- (24) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカッダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静か／静かだった} かもしれない)
- (25) コーベワ {アメ／アメッダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨／雨だった} かもしれない)

2. 2. 1. 2 意味と用法

「かもしれない」に対応する「ニカーラン」は、〈話し手がその事態を可能性があることと認識していること〉を表す。(26)から(28)は、すべて〈可能性〉を表している。

- (26) サカモトサンワ トショカンニ オル ニカーラン。(坂本さんは、図書館にいるかもしれない)
- (27) イマッゴロノサッポロワ ショー ヒヤイ ニカーランゾネ。(今ごろの札幌は、とても寒いかもしれませんよ)
- (28) カットーサンワ イヌッガ キライ ニカーランゼヨ。(甲藤さんは、犬がきらいかもしれないぞ)

論理的には、ある可能性があるということは、そうでない可能性もあるということである。したがって、(29)のように、相矛盾する事柄を、「ニカーラン」によって並列させることができる。

- (29) フクドメクンワ イエニ オル ニカーランシ、モー イエオ ッデタ ニカーラン。
(福留くんは、家にいるかもしれないし、もう家を出たかもしれない)

「かもしれない」に対応する「ニカーラン」は、可能性の存在のみを問題にし、未知の事柄の真偽を判定する形式ではないので、(30)のように話し手の記憶の呼び起こしや(31)のように行動予定について用いることが可能である。

- (30) イソイヅョッタキ パソコンオ キラズニキタ ニカーラン。(急いでいたので、パソコンを切らずに来たかもしれない)
- (31) アスノバン オマンニ ッデンワスル ニカーラン。(明日の晩、君に電話するかもしれない)

2. 2. 1. 3 共起する副詞的表現

この〈可能性〉を表す場合、「モシカスリヤー」「ヒョットスリヤー」などの副詞がいっしょに使われることが多い。このほか、「アルイワ」とも共起する。

- (32) アンヒター モシカスリヤー／ヒョットスリヤー ヤマモトサンノアニキ ニカーランゼヨ。(あの人は、もしかすると山本さんのお兄さんかもしれないぞ)

「かもしれない」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン2」とする。

「ニカーラン2」：〈話し手がその事態を可能性があることと認識すること〉

2. 2. 2 「にちがいない」と「ニカーラン」

2. 2. 2. 1 接続と形

「にちがいない」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞＋「だった」に接続する。

- (33) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} にちがいない)
- (34) コノブンタンワ {タカイ／タカカッタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} にちがいない)
- (35) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカッダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静か／静かだった} にちがいない)
- (36) コーベワ {アメ／アメッダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨／雨だった} にちがいない)

2. 2. 2. 2 意味と用法

(37)(38)から、共通語「にちがいない」に「ニカーラン」が対応することが分かる。これらは、〈断定はできないが、その判断が間違いのないものとして確信されること〉を表す。

- (37) イマヅゴロワ ムネイシサンワ ヒマ ニカーランゾネ。(今頃は、宗石さんは、暇にちがいありませんよ)
- (38) アリヤー ハタナケナカサン ニカーランゼヨ。(あれは、畠中さんにちがいないぞ)

(39)のように、「間違いない」と置き換えることができるものがある。

- (39) サッキ カクニンシタケンド コノシッゴトノセキニンシャワ アンヒト ニカーラン。
(さっき確認したが、この仕事の責任者は、あの人に間違いない)

次の(40)のように〈譲歩〉を表す用法もある。

- (40) タシカニ アンセンセイワ リッパナオヒト ニカーラン。(確かに、あの先生は、りっぱなお人にちがいない)

2. 2. 3 共起する副詞的表現

(41)(42)のように「にちがいない」の意味で用いる場合は、「タブン／オソラク」や必然性を示す「キット」などの副詞がいっしょに使われることが多い。

- (41) コノマイキヤー ウチノチームワ {タブン／オソラク} マケル ニカーラン。(このまま行けば、うちのチームは、{たぶん／おそらく} 負けるにちがいない)
(42) コントケイノハリワ キット トマル ニカーラン。(この時計の針は、きっと止まるにちがいない)

「にちがいない」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン3」とする。

「ニカーラン3」:〈断定はできないが、その判断が間違いのないものとして確信されること〉
「ニカーラン3′」:〈譲歩〉(3′の′は、派生義を表す。以下同様)

2. 2. 3 「はずだ」と「ニカーラン」

2. 2. 3. 1 接続と形

「はずだ」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞+「だった」に接続する。

- (43) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} はずだ)
(44) コノブンタンワ {タカイ／タカカッタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} はずだ)
(45) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静かな／静かだった} はずだ)
(46) コーベワ {アメ／アメダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨の／雨だった} はずだ)

2. 2. 3. 2 意味と用法

「はずだ」と「ニカーラン」は、基本的に、〈何らかの根拠によって、話し手がその事柄の

成立・存在を当然視していること〉を表す。(47)(48)のように、〈論理的な推論をすること〉を表す用法が、基本的である。

- (47) モー ロクジッヂャキ ユービンキョクワ シマツチュー ニカーラン。(もう6時なので、郵便局は閉まっているはずだ)

しかし、「にちがいない」と「はずだ」には、次のような違いがある。

- (48) ヨシコサンワ エイゴノキョーシッヂャキ エイゴッガ ハナセル ニカーラン。(佳子さんは英語の教員なので、英語が話せるはずだ)

しかし、共通語の「はずだ」は(49)(50)のように、推論の結果と現実とが食い違う場合にも使えるし、以前から知っていた現実のことがらの理由や背景を知って論理的に納得したという場合にも使える。

- (49) ヨシコサンワ エイゴノキョーシッヂャキ エイゴッガ ハナセル ニカーランニニチジョーカイワサエ ッデキン。(佳子さんは英語の教員なので、英語が話せるはずなのに／×にちがいないのに、日常会話すらできない)

- (50) a: ヨシコサンワ エイゴノキョーインゾネ。(佳子さんは、英語の教員ですよ)
b: マッコト、ッドーリッデ エイゴッガ ハナセル ニカーランネヤ。(そうですか、どうりで英語が話せるはずだ／×にちがいないなあ)

これに対して、(51)の用例のように、共通語「はずだ」は、共通語「にちがいない」のような〈確信〉を表すことには使えない。〈当然性〉を伴う表現となる。

- (51) アンイヌノヨースオ ミテ ビョーキ ニカーラン チ オモータゾネ。(あの犬の様子を見て、病気×のはずだ／にちがいないと思いましたよ)

また、聞き手も当然それを知っているにも関わらず、それと矛盾した言動をしている場合は、〈確認要求〉を表す。

- (52) ッドーユートッモリッヂャ ニッドトルナ チ ユータ ニカーラン。(どういうつもりだ。二度と来るなど言ったはずだ)

2. 2. 3. 3 共起する副詞的表現

「はずだ」に対応する「ニカーラン」には、特定の副詞があるわけではないが、論理的推論を表す用法では、「トーゼン」「キット／タブン」と共起することがある。

- (53) サカモトサント ナカオカサンワ キンジョッヂャキ トーゼン オタッガイオ シツチュー ニカーラン。(坂本さんと中岡さんは近所だから、当然、お互いを知っているはずだ)

- (54) ウルシバタクンワ サケオノマンキ {キット／タブン} キッサテンニ オル ニカーラン。(漆畑くんは、酒を飲まないから、{きつと／たぶん} 喫茶店にいるはずだ。

また、記憶の中の事柄を再確認する用法では、「タシカ」と共起する。

- (55) タシカ コンドーサンワ オトトシ タイショクシタ ニカーラン。(たしか、近藤さんは、一昨年退職したはずだ)

「はずだ」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン 4」とする。

「ニカーラン 4」：〈話し手が何らかの根拠によって、事柄の成立・存在を当然視して論理的な推論をすること〉

「ニカーラン 4'」：〈確認要求〉

2. 3 証拠性

2. 3. 1 「ようだ」と「ニカーラン」

2. 3. 1. 1 接続と形

「ようだ」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞＋「だった」に接続する。

- (56) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} ようだ。
 (57) コノブantanワ {タカイ／タカカッタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} ようだ)
 (58) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカッダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静かな／静かだった} ようだ)
 (59) コーベワ {アメ／アメッダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨の／雨だった} ようだ)

2. 3. 1. 2 意味と用法

「ようだ」に対応する「ニカーラン」は、基本的に、〈話し手が観察によってその事態をとらえる〉ことを表す。

(60)の例文は、目の前の状況について「よくわからないが、状況から判断して、こういう様子だ」と述べる場合である。

- (60) トナリノヘヤニャー ッダレカ オル ニカーラン。(隣の部屋には、誰かいるらしい／ようだ)

「ようだ」に対応する「ニカーラン」は、話し手が観察して事柄そのものを述べる用法である。(61)のように、話し手の観察を通して捉えた個別的な事柄だけでなく、(62)のように、全体的な状況や傾向のようなものもある。

- (61) マッコト トッカレチュー ニカーラン。(本当に、疲れているようだ)

(88)

- (62) サイキンノワカモンニャー スマホッガ ニンキッガアル ニカーラン。(最近の若者には、スマホが人気があるようだ)

また、話し手が観察したことに基づく推定を述べる用法もある。

- (63) ヤマッガ トッエチュー。オーアメッガ フッタ ニカーラン。(山が崩れている。大雨が降ったようだ)

次のような、〈婉曲〉を表す場合もある。

- (64) キョーワ カエッタホッガ エイ ニカーラン。(今日は、帰った方が良いうだ)

また、「ニカーラン」には、(65)のように、対象の様子を他のものに喩える〈比況〉の用法もある。ただし、〈例示〉の用法はない。

- (65) コノエワ マルッデ シャシン ニカーラン (この絵は、まるで写真のようだ)

次の、(66)のように「ニカーラン+名詞」の形でも使える。

- (66) ミヤヅサンワ トリ ニカーランコエッデ ウタイマス。(宮地さんは鳥のような声で歌います)

2. 3. 1. 3 共起する副詞的表現

視覚的に観察されたことを述べる場合には、「ミタトコ」と共起し、推定用法では、「ッドーヤラ」「ッドーモ」と共起する。

- (67) ミタトコ コンカトッオワ イキッガ エイ ニカーラン。(見たところ、このカツオは、活きが良いうだ)

- (68) {ッドーヤラ／ッドーモ} アノヒター ナンモ ワカッテナイ ニカーラン。(「どうやら／どうも」あの人は、何も分かってないようだ)

〈比況〉の用法では、「マルッデ」「アタカモ」などと共起する。

- (69) {マルッデ／アタカモ} アンヒター ジブンダッケ タッダシート オモーチュー ニカーラン。(「まるで／あたかも」あの人は、自分だけ正しいと思っているようだ)

次の(70)から(76)までの用例は、先に見てきた共通語「ようだ」に対応する「ニカーラン」の用法が、共通語「みたいだ」に対応する「ミタイナ」と意味特徴を共有することが分かる。インフォーマントの感覚では、「〈ややくだけた言い方〉」と言うしかなく、自分たちより若い年齢の人が多く使っている」とのことである。共通語「みたいだ」が「ようだ」の〈口語的表現〉とする解釈と一致するものである。

- (70) トナリノヘヤニャー ッダレカ オル {ニカーラン／ミタイナ}。(隣の部屋には、誰がいる {ようだ／みたいだ}) (= 60)

- (71) マッコト トッカレチュー {ニカーラン／ミタイナ}。(本当に、疲れている {ようだ／みたいだ}) (= 61)

- (72) サイキンノワカモンニャー スマホッガ ニンキッガアル {ニカーラン／ミタイナ}。
(最近の若者には、スマホが人気がある {ようだ／みたいだ}) (= 62)
- (73) ヤマッガ ツエチュー。オーアメッガ フッタ {ニカーラン／ミタイナ}。(山が崩れて
いる。大雨が降った {ようだ／みたいだ}) (= 63)
- (74) キョーワ カエツタホーガ エイ {ニカーラン／ミタイナ}。(今日は、帰った方が
良い {ようだ／みたいだ}) (= 64)
- (75) コノエワ マルッデ シャシン {ニカーラン／ミタイナ}。(この絵は、まるで写真 {の
ようだ／みたいだ}) (= 65)
- (76) ミヤッヂサンワ トリ {ニカーラン／ミタイナ} コエッデ ウタイマス。(宮地さんは
鳥 {のような／みたいな} 声で歌います) (= 66)

また、(77)のように〈伝聞〉の用法がある。この場合、〈他者から取り入れた情報を、話し手の情報として聞き手に伝える伝聞〉を表す。

- (77) ミンナーガ マッコト シアワセニ クラシチョッタ ニカーラン。(皆が、とても
幸せに暮らしていたようだ)

「ようだ」と「ニカーラン／ミタイナ」を比較・対照した結果、「ニカーラン／ミタイナ」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン5」とする。

「ニカーラン5」: 〈話し手が観察によって、その事態を推定すること〉

「ニカーラン5'」: 〈婉曲〉

「ニカーラン5''」: 〈比況〉

「ニカーラン5'''」: 〈他者から取り入れた情報を、話し手の情報として聞き手に伝える伝聞〉

2. 3. 2 「らしい」と「ニカーラン」

2. 3. 2. 1 接続と形

「らしい」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞＋「だった」に接続する。

- (78) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} らしい)
- (79) コノブantanワ {タカイ／タカ Катта} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} らしい)
- (80) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカッダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静か／静かだった} らしい)
- (81) コーベワ {アメ／アメッダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨／雨だった} らしい)

2. 3. 2. 2 意味と用法

「らしい」に対応する「ニカーラン」は、(82)(83)のように〈観察されたことを証拠として、未知の事柄を推定すること〉を表す。

- (82) クルマノエンジンガ カカランゼヨ。チャッガマッタ ニカーラン。(車のエンジンがかからないよ。故障したらしい)
- (83) イワサキシノデンキガ キエチュー。ッドーヤラ ソトイッデチュー ニカーラン。(岩崎さんの家の電気が、消えている。どうやら外出しているらしい)

これらの場合、〈観察された事柄の原因・理由が、推定された事柄〉である。「故障したから、エンジンがかからない」「外出しているから、家の電気が消えている」という関係が成立している。

次の(84)(85)のように、〈他者から得た情報を証拠として、未知の事柄を推定する伝聞〉の用法にも使われる。

- (84) ウワサッヂャ チジノホーモンガ エンキニナッタ ニカーラン。(うわさでは、知事の訪問が延期になったらしい)
- (85) センセイノハナシッヂャ タナカクノヨー、ダイワ カイフクニムカウ ニカーラン。(先生の話では、田中くんの容態は、回復に向かうらしい)

また、(86)のように、〈ふさわしさ〉を表す用法もある^(注2)。

- (86) アンヒトノフーテーワ イカニモ キョージュ ニカーラン。(あの人の態度は、いかにも教授らしい)

2. 3. 2. 3 共起する副詞的表現

〈推定〉を表す用法では、「ッドーヤラ」「ッドーモ」と共起する。

- (87) {ッドーヤラ／ッドーモ} コンヒター エイッゴッガ ワカラン ニカーラン。({どうやら／どうも} この人は、英語が分からないらしい)

〈伝聞〉を表す用法では、その文の内容が伝聞したことであることを予告する「ナンデモ」「キキヤー」「キクトコニヨリヤー」や、情報源を表す「～ニヨリヤー」「～ッガユーニワ」「～ニイワシャー」「～ノハナシッヂャ」「～カラキータトコッデワ」「～ッガユーニヤー」「～ニイワセリヤー」「ウワサッヂャ」などの表現と共起する。

- (88) {ナンデモ／キキヤー／キクトコニヨリヤー}、コトシノフユワ サムサッガ キビシーニカーラン。({何でも／聞けば／聞くところによれば}、今年の冬は、寒さが厳しいらしい)
- (89) {ニュースニヨリヤー}、カジッガ サンゲンモ アッタ ニカーラン。({ニュースによると／よれば}、火事が三件もあったらしい)

- (90) オザキサン {ノハナシヂャ／カラキータトコデワ／ッガユニーチャー／ニイワセリャー}、アノドラマワ トッマラン ニカーラン。(尾崎さん {の話では／から聞いたことでは／が言うことには／に言わせると}、あのドラマは、つまらないらしい)

「らしい」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン6」とする。

「ニカーラン6」:〈観察されたことを証拠として、未知の事柄を推定すること〉

「ニカーラン6'」:〈情報を証拠として、情報のもとになった事柄が存在することを推定する伝聞〉

「ニカーラン6''」:〈ふさわしさ〉

2. 3. 3 「(し) そうだ」と「ニカーラン」

2. 3. 3. 1 接続と形

「(し) そうだ」に対応する「ニカーラン」は、動詞やイ形容詞の非過去形、ナ形容詞の語幹、名詞に接続する。

- (91) イマニモ アメッガ フル ニカーラン。(今にも雨が降りそうだ)
 (92) コノブantanワ オイシー ニカーラン。(この文旦は、おいしいそうだ)
 (93) サイキン ヨコヤマサンワ マッコト ッゲンキ ニカーラン。(最近、横山さんは、元気そうだ)
 (94) アンコワ モッデル ニカーラン。(あの子は、モデルだそうだ)

2. 3. 3. 2 意味と用法

〈話し手がその事柄を徴候との関連においてとらえる〉ことを表すことが、「(し) そうだ」に対応する「ニカーラン」の基本的な意味である。

(95)(96)のように、「ニカーラン」が動詞に接続した場合、〈直後にあることが起こる、その徴候が存在すること〉を表す。

- (95) アメッガ フリッダス ニカーラン。(雨が降り出しそうだ)
 (96) イヌッガ フェンスカラ ニゲッダス ニカーラン。(犬がフェンスから、逃げだしそうだ)

また、(97)のように〈現状を踏まえて、今後の見通しを述べる〉用法もある。

- (97) マッコト ソラッガ クローナッテキタネヤ。コノブンヂャー コレカラ アメッガフル ニカーラン。(本当に空が暗くなってきたなあ。この分では、これから雨が降りそうだ)

さらに、動詞に接続した場合の用法として、〈純粹に話し手の予想〉を表すものがある。〈何らかの根拠に基づく場合〉、〈漠然とした予感を表す場合〉がある。

(98) キョーワ オマトッリッヂャキ ッデンシャワ コム ニカーラン。(今日は、お祭りなので、電車が混みそうだ)

(99) アスワ エイヒニナル ニカーラン。(明日は、良い日になりそうだ)

(100)から(102)のように、状態を表す「動詞テイル」やイ形容詞・ナ形容詞につくと、〈そうであると思わせるような性質を備えている〉ことを表す。

(100) アノヒトクニヤー ッダレゾ スンヂユー ニカーラン。(あの人の家には、誰か住んでいそうだ)

(101) コンカシャー アマイ ニカーラン。(このお菓子は、甘そうだ)

(102) アンデンシジショワ ベンリ ニカーラン。(あの電子辞書は、便利そうだ)

また、(103)(104)のように「大きい」「背が低い」のように〈一見してわかる性質〉には、「ニカーラン」を使うことができない。

(103) *コンキーワ フトイ ニカーラン。(この木は、大きそうです)

(104) *ヤマモトサンワ コンマイ ニカーラン。(山本さんは、背が低そうです)

(105)(106)のように、動きや変化を表す動詞につくと、〈そのような動き・変化が起きる兆候があること〉を表わす。

(105) アメッガ フル ニカーランゾネ。(雨が降りそうですよ)

(106) ワシワ キョーハヨーニ ッガッコイ イケル ニカーランゾネ。(わたしは、今日早く学校に行けそうですよ)

次の(106')のように、共通語「(し) そうだ」と「ニカーラン」は、次のような〈話し手の意思的な行為〉には普通使えない。

(106') *ワシワ キョーハヨーニ ッガッコイ イク ニカーランゾネ。(わたしは、今日早く学校に行きそうですよ)

したがって、「ニカーラン」は、〈対象の様子 of 推察〉というニュアンスを伴う。

さらに、「ニカーラン」が形容詞に接続した場合は、〈主体のもつ性質や内的状態が、外観として観察されること〉を表す。

(107) コンフクロワ ミルカラニ カルイ ニカーラン。(この袋は、見るからに軽そうだ)

2. 3. 3. 3 共起する副詞的表現

特に共起しやすい副詞があるわけではないが、動詞接続の「(し) そうだ」に対応する場合は、「イマニモノ／モースコシッデ」など、将然的な意味を伴う表現と共起する。

(108) {イマニモノ／モースコシッデ} アメッガフル ニカーラン。({今にも／もう少しで } 雨

が降りそうだ)

「(し) そうだ」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン7」とする。

「ニカーラン7」: 〈話し手の直接観察によって、対象の様子を推察すること〉

2. 3. 4 「(する) そうだ」と「ニカーラン」

2. 3. 4. 1 接続と形

「(する) そうだ」(証拠性) に対応する「ニカーラン」は、動詞や形容詞の非過去形・過去形、ナ形容詞の語幹・過去形、名詞、名詞+「だった」に接続する。

- (109) ミョージンサンワ {クル／キタ} ニカーラン。(明神さんは、{来る／来た} そうだ)
- (110) コノブantanワ {タカイ／タカカタ} ニカーラン。(この文旦は、{高い／高かった} そうだ)
- (111) アンヤマンナカワ {シズカ／シズカダッタ} ニカーラン。(あの山の中は、{静かだ／静かだった} そうだ)
- (112) コーベワ {アメ／アメダッタ} ニカーラン。(神戸は、{雨だ／雨だった} そうだ)

2. 3. 4. 2 意味と用法

「(する) そうだ」に対応する「ニカーラン」は、〈情報伝達に際して、その情報が他者から取り入れたものであること〉を表す。

(113) より、共通語「(する) そうだ」と「ニカーラン」は、どちらも〈他の人から聞いたり本で読んだりして知った事柄を聞き手に伝える(伝聞)〉の表現である。

- (113) テンキヨホーニヨリヤー アシタワ アメッガ フル ニカーランゼヨ。(天気予報によれば、明日は雨が降るそうどうぞ)

(114) のように、情報源を表わす「～ニヨリヤー (によれば)」や「～ノハナシッヂャ (の話では)」などが、いっしょに使われることが多い。

- (114) センセイノハナシッヂャ ライゲトッカラ アタラシーセイトッガ クル ニカーランゼヨ。(先生の話では、来月から新しい生徒が来るそうどうぞ)

また、次のような用例は、単に情報をとりつぐ、伝言的な用法である。

- (115) ハヤカワ: (ヨシッダニ) 「ッゴッゴワ サンジニ イクチ ミモトニ トッタエテオイテクレ」(早川: (吉田に)「午後は3時に行くと、味元に伝えておいてくれ」)
- ヨシッダ: (ミモトニ) 「ハヤカワワ ッゴッゴサンジニクル ニカーラン。(早川は、午後3時に来るそうだ)

2. 3. 4. 3 共起する副詞的表現

〈伝聞〉の用法では、その文の内容が伝聞したことであることを予告する「ナンデモ」「キキヤー」「キクトコニヨリヤー」や、情報源を表す「～ニヨリヤー」「～ガユーニワ」「～ニイワシャー」「～ノハナシッヂャ」「～カラキータトコッデワ」「～ガユーニヤー」「～ニイワセリヤー」「ウワサッヂャ」などと共起する。

- (116) {ナンデモ／キキヤー／キクトコニヨリヤー}、コトシノフユワ サムサッガ キビシーニカーラン。(〈何でも／聞けば／聞くとこによれば〉、今年の冬は、寒さが厳しいそうだ)
- (117) {ニュースニヨリヤー}、カジッガ サンゲンモ アッタ ニカーラン。(〈ニュースによると／よれば〉、火事が三件もあったそうだ)
- (118) オザキサン {ノハナシッヂャ／カラキータトコッデワ／ッガユーニヤー／ニイワセリヤー}、アノッドラマワ トッマラン ニカーラン。(尾崎さん 〈の話では／から聞いたことでは／が言うことには／に言わせると〉、あのドラマは、つまらないそうだ)

「(する) そうだ」と「ニカーラン」を比較・対照した結果、「ニカーラン」は、以下の意味特徴を抽出することができる。これを「ニカーラン 8」とする。

「ニカーラン 8」: 〈他者から取り入れた情報を、そのまま聞き手に伝える伝聞〉

「ニカーラン 1」から「ニカーラン 8」の意味特徴を、以下に掲げる^(注3)。

「ニカーラン 1」: 〈推量 (想像や思考によって、その事態が成立するとの判断を下すこと)〉

「ニカーラン 2」: 〈話し手がその事態を、可能性があることと認識すること〉

「ニカーラン 3」: 〈断定はできないが、その判断が間違いのないものとして確信されること〉

「ニカーラン 3'」: 〈譲歩〉

「ニカーラン 4」: 〈話し手が何らかの根拠によって、事柄の成立・存在を当然視して論理的に推論をすること〉

「ニカーラン 4'」: 〈確認要求〉

「ニカーラン 5」: 〈話し手の観察によって、命題内容の成立を認識すること〉

「ニカーラン 5'」: 〈婉曲〉

「ニカーラン 5''」: 〈比況〉

「ニカーラン 5'''」: 〈他者から取り入れた情報を、話し手の情報として聞き手に伝える伝聞〉

「ニカーラン 6」: 〈観察されたことを証拠として、未知の事柄を推定すること〉

「ニカーラン 6'」: 〈情報を証拠として、情報のもとになった事柄が存在することを推定する伝聞〉

「ニカーラン 6」:〈ふさわしさ〉

「ニカーラン 7」:〈話し手の直接観察によって、対象の様子を推察すること〉

「ニカーラン 8」:〈他者から取り入れた情報を、そのまま聞き手に伝える伝聞〉

これらの意味特徴から、〈真とは断定できない場合や断定したくない場合の知識を述べること〉という「ニカーラン」の意義素を結論づけることができる。これは、〈確言のモード〉に対立する〈概言のモード〉に当たる。「ニカーラン 1」から「ニカーラン 8」の意味特徴については、この意義素からの「派生義」と見なすことができる。

3. おわりに

高知市方言「ニカーラン」の本質は、認識のモダリティのうち、〈確言〉すなわち〈断定〉と対立する、〈概言〉すなわち〈断定回避〉を表すモダリティであることが分かった。今後は、旧中村市（現四万十市）方言の意味と用法を考察し、幡多方言との比較を行いたい。

注

- (1) 文中のガ行・ダ行の文頭に現れる「ㇿ」は、前鼻音を表す。
- (2) 「ふさわしさ」のモードについては、加藤・福地（1989）参照。
- (3) 高知市方言の「ニカーラン」には、話し手と聞き手の情報量の基準は、関与しない。

【参考文献】

- 加藤泰彦・福地務（1989）『テンス・アスペクト・モード』荒竹出版
 尚学図書編（1989）『日本方言大辞典』下巻 小学館
 高木千恵（2001）「高知県幡多方言の「ニカーラン」について」『阪大社会言語学研究ノート』
 3 61-76
 高橋顕志（1992）「各地録音紹介－文字化と解説 四国 1 土佐方言」『国文学解釈と鑑賞』
 52-7
 土居重俊（1937）「土佐方言語法 下」『方言』7-8
 土居重俊・浜田数義編（1985）『高知県方言辞典』高知市文化振興事業団
 仁田義雄（2000）「認識のモダリティとその周辺」森山卓郎・仁田義雄・工藤浩『日本語の
 文法 3 モダリティ』岩波書店
 日本語文法記述研究会編（2003）『現代日本語文法 4 モダリティ』くろしお出版

日本放送協会（1981）『カセットテープ 全国方言資料』5 中国・四国編 日本放送出版協会

橋尾直和（2000）『土佐弁ルネサンスー土佐ことば辞典ー』高知県文化環境政策課

益岡隆志・田窪行則（1999）『基礎日本語文法』くろしお出版

宮崎和人ほか（2002）『新日本語文法選書4 モダリティ』くろしお出版

安岡浩二（2003）「高知県方言における推量表現ーニカーランについてー」『高知大國文』34

横井真紀子（1981）「高知県中央部方言における推量表現」『高知女子大國文』17

吉田則夫（1984）「高知県の方言」『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会

【附記】本稿をなすに当たっては、インフォーマントの四ノ宮久雄氏に大変お世話になりました。ここに記して、感謝申し上げます。

（はしお なおかず・高知県立大学）